被覆処理によるユズのコハン症軽減

ユズのかいよう性コハン症は、８、９月の果実肥大期に現れる凸型と、果実成熟期から貯蔵中に発生する凹型がある。凸型コハン症については、カンキツトリステザウィルスの関与が示されているものの、その発生原因は明らかにされていない。

これまで薬剤散布や潅水、施肥等による発生軽減が試されてきたが、有効な対策は見いだされていない。今回、簡易な屋根かけ処理をしたところ、コハン症の発生が抑えられ、正品率の高まることが明らかとなった。

山根系のユズを供試し、２月中旬から５月中旬までビニール被覆加温し、その後収穫の10月上旬まで屋根かけとした区（加温区）、また開花期の５月中旬から収穫の11月上旬まで屋根かけした区（屋根かけ区）を設けた。

表１　かいよう性コハン症（１果当たりの発生数）

試験区	凸型コハン症			凹型コハン症		
	果梗部	赤道部	果頂部	果梗部	赤道部	果頂部
屋根かけ区	0.3	0.7	0.2	0.2	0.5	0.2
加温区	0	0	0.3	0.3	0.3	0.3
露地区	10.5	22.9	5.0	0.7	2.3	1.0

注）調査日：加温区10月15日、屋根かけ区・露地区11月20日

加温区は３月下旬から４月上旬に、露地より50日程度早く開花し、収穫も約１か月早くなった。凸型コハン症の発生は被覆によって著しく減少した。ただし、凹型コハン症は、差がなかった（表１）。

また、被覆処理した果実は果皮が滑らかとなった。しかし、屋根かけ被覆は日中の高温が原因と考えられるが、着色が遅れた（表２）。従って、着色を促すためには着色期前にビニールを除去し、日中の気温が上がらないようにする必要がある。

なお、引き続き被覆によって凸型コハン症が減少する要因を解明し、効果的な防除技術を開発する予定である。

（鬼北分場　研究員　松尾勇作）

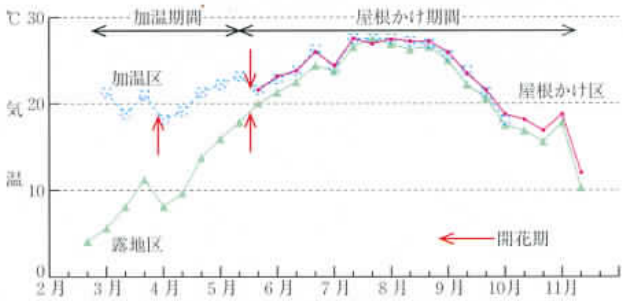

図１　各処理区の気温の変化（1997年）

表２　収量及び果実品質

試験区	樹容積（㎥）	収量（kg/樹）	１果重（g）	果肉歩合（%）	果汁歩合（%）	果皮の粗滑（滑0～5粗）	着色歩合（10月１日）
屋根かけ区	8.2	24.6	132	53.6	16.0	2.6	3.5
加温区	12.2	28.3	121	58.8	11.9	1.2	9.5
露地区	7.4	9.9	143	54.4	13.9	4.1	6.1

注）調査日：加温区10月15日、屋根かけ区・露地区11月20日：着色歩合(緑) 0－10(黄)

写真１　屋根かけハウスユズ

編集発行　愛媛県立果樹試験場
〒791-0112
松山市下伊台町1618
TEL 089-977-2100
FAX 089-977-2100